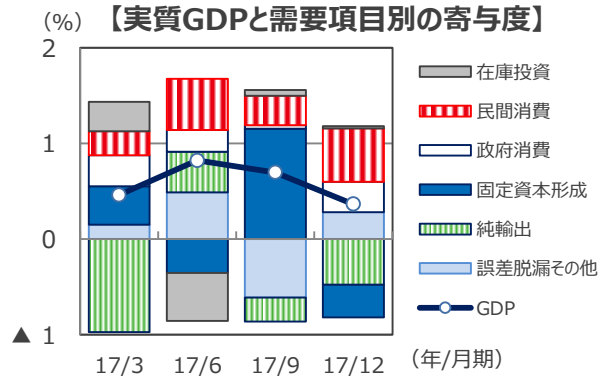


## 今日のトピック 豪州の金融政策は引き続き現状維持（2018年3月） 景気は堅調に推移、物価は低い水準で安定

### ポイント1 景気は拡大基調を持続

10-12月は前期比+0.4%成長

- 2017年10-12月期の豪州の実質GDP成長率は、前期比+0.4%、前年同期比+2.4%となりました（3月7日公表）。市場予想の同+0.5%、同+2.5%には及ばなかったものの、拡大基調に変化はありません。農産物輸出の一時的な落ち込みによる輸出の不振、建設投資の減少を、個人消費や政府支出の拡大で吸収しました。
- 雇用の順調な増加を背景に、個人消費は今後も底堅く推移する見通しです。一時的要因で落ち込んだ輸出の回復も見込まれることから、18年の年間成長率は+3%弱まで高まると予想されます。



(注1) データは2017年1-3月期～2017年10-12月期。

(注2) 実質GDPは前期比。需要項目はGDP成長率に対する寄与度。

(注3) 固定資本形成 = 設備投資 + 住宅投資。  
純輸出 = 輸出 - 輸入。

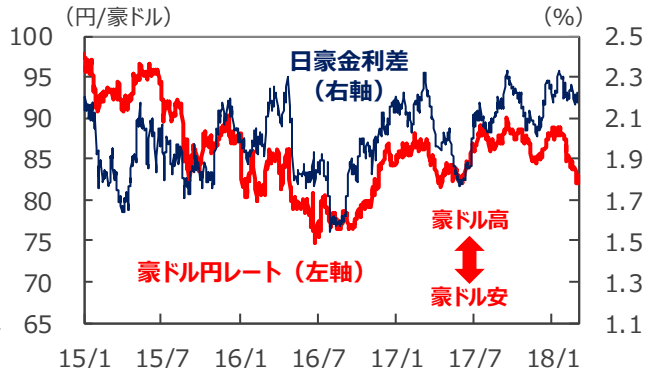
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 金融政策は現状維持

予想通り1.50%で据え置き

- 豪州準備銀行（RBA）は3月6日に開催した金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利を1.50%に据え置く決定をしました。
- 直近17年10-12月期の消費者物価指数上昇率（消費者物価指数は、異常値をつけた項目を除外したトリム平均値）は、前年同期比+1.8%と、RBA目標値の+2%を引き続き下回りましたが、RBAの景気・物価の評価に変化はありません。金利は当面、据え置かれる見込みです。

### 【豪ドル円レートと日豪金利差】



(注1) データは2015年1月2日～2018年3月6日。(年/月)

(注2) 金利差は豪州 - 日本。金利はともに3年国債利回り。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 豪ドルは底堅い展開へ

- 足元の豪ドルの対円相場は、日米株価の急落等によるリスク回避の動きや、トランプ米大統領の保護主義的な通商政策等から、軟調な展開となっています。短期的には、これら不透明要因が豪ドル相場の頭を押さえる公算はありますが、資源価格の持ち直し、豪州景気の順調な拡大、日豪の金融政策の違い（日銀は緩和姿勢維持、RBAは据え置きの見通し）等を踏まえると、今後、豪ドルの持ち直しが期待されます。

ここも 2018年2月23日 堅調さを維持する豪州経済（2018年2月）

チェック! 2018年2月 6日 豪州の金融政策は16会合連続の据え置き（2018年2月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。